

令和3年度 秋期 システム監査技術者試験 解答例

午後Ⅰ試験

問1

出題趣旨	
<p>AIに関する技術開発が急速に進む中、企業はAIの利活用による便益を増進させるとともに、AIの利活用から生じるリスクを抑制する必要がある。また、AIを導入するに当たって、導入目的や効果の検討、学習と評価、テスト、リスク、コントロールなどを留意する必要がある。</p> <p>本問では、チャットボット開発の企画段階の監査を題材として、AIのもつ特性、AIを利用したシステムの開発段階におけるリスク及びコントロールを理解し、コントロールの適切性を確認するための監査手続を選択して監査を実施する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	ア 経営会議などの議事録を閲覧し、経営層によって十分に審議され、承認されているかを確認する。	
設問2	イ PoC計画書を閲覧し、目的、結果の評価基準、終了基準の記述があることを確かめる。	
	ウ PoC評価書を閲覧し、結果の評価や終了の判断についての記述を確認する。	
設問3	学習後に結果を評価しないで本番移行してしまうという問題	
設問4	AIの特性の教育や、結果の正しさや利用可否を判断する教育の予定がないから	

問2

出題趣旨	
<p>情報システムのハードウェアの老朽化やOSのサポート切れなどの課題を契機として、システムの再構築に取り組むことはどの組織でも起こり得る。再構築計画においては、どのような技術を採用するか、どのようなハードウェアやサービスを選択するか、既存の資産をどこまで活用するかなど、検討すべき項目は多岐に渡る。そのため、検討に当たっては、関連する部門は何らかの形で参画する必要がある。</p> <p>本問では、システム再構築プロジェクトの企画段階の監査を題材として、システムの企画段階でのリスク及びコントロールを理解し、コントロールの適切性を確認するための監査手続を選択して監査を実施する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	予算規模に応じたIT投資の責任者がプロジェクト運営委員会のメンバーとして参画していること	
設問2	再構築方式を比較検討した際の評価項目に、ビジネス目標の視点があること	
設問3	(i) 現行システムの要件を熟知している者がいないので、仕様を適切に確定できない。	
	(ii) 業務要件が明確でないため、要件を充足しているかどうかのテストができないこと	
設問4	セキュリティ、障害設計などの非機能要件の実現性が検討されていること	

問3

出題趣旨	
<p>長期間使用してきた基幹システムのシステム再構築プロジェクトでは、新規のシステム開発のノウハウやプロジェクト管理のノウハウがシステム部門に乏しいケースが多い。その結果、外部委託先に開発作業を丸投げし、システム再構築プロジェクトが迷走することで、システムの稼働時期が延期したり、コストが大幅に超過したりするケースが発生している。</p> <p>本問では、システム再構築プロジェクトの結合テストの監査を題材として、システム開発を外部委託している場合の結合テスト完了評価に対する監査の観点、運用すべき監査手続の知識と立案能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	テスト項目の質が十分であることが評価されていないから	
設問2	課題管理表を閲覧し、マスタデータの作成ミスの再発防止策の内容と対応期限を確かめる。	
設問3	類似不良点検について、開発チーム間で情報共有されているか	
設問4	システムテスト開始前に購買管理システムと生産管理システムとの疎通確認テストを実施すること	
設問5	C社システム部及び利用部門が主体的にシステムテストを実施する体制を確保できるか	